

研究活動報告

第6回社会保障審議会人口部会

社会保障審議会の第6回人口部会は2006年6月30日(金)午後4時から6時まで厚生労働省にて開催された。本部会の開催目的は、国立社会保障・人口問題研究所が行なう次期将来人口推計の考え方や推計前提について検証を行なうこととされている。委員は次の14名である。

阿藤 誠(早稲田大学人間科学学術院教授)、岩淵勝好(東北福祉大学教授)、

鬼頭 宏(上智大学経済学部教授)、国友直人(東京大学経済学部教授)、

小島明日奈(毎日新聞社生活情報センター生活家庭担当部長)、榊原智子(読売新聞東京本社生活情報部記者)、白波瀬佐和子(東京大学大学院人文社会系研究科助教)、鈴木隆雄(東京都老人総合研究所副所長)、津谷典子(慶応義塾大学経済学部教授)、樋口美雄(慶応義塾大学商学部教授)、廣松 毅(東京大学大学院総合文化研究科教授)、宮城悦子(横浜市立大学医学部準教授)、山崎泰彦(神奈川県立保健福祉大学教授)、山田昌弘(東京学芸大学教育学部教授)、(以上、五十音順)

また、事務局は、社会保障担当参事官、政策企画官、国立社会保障・人口問題研究所。

冒頭、川崎厚生労働大臣より挨拶と各委員との意見交換が行われた後、審議に入った。

部会長には廣松毅委員が選出され、阿藤誠委員が部会長代理に指名された。報告聴取として、①平成17年人口動態統計月報年計(概数)の概況(厚生労働省大臣官房統計情報部)、②第13回出生動向基本調査(夫婦調査)(国立社会保障・人口問題研究所)、③平成17年国勢調査抽出速報と今後の公表予定(総務省統計局)についての報告が行なわれた後、国立社会保障・人口問題研究所より「将来人口推計とは—その役割と仕組み—」の表題で、将来人口推計の方法と前回(2002年)推計の基本的な考え方について説明があった。次期推計では、従来の推計方法を精査することに加えて、社会経済要因を盛り込むべきという意見と、これを一定の信頼性の下に行なうことは難しいとする意見などが出された。

なお、社会保障審議会・人口部会の詳細に関しては、厚生労働省ホームページを参照のこと
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/index.html> (金子隆一記)

第7、8回社会保障審議会人口部会

社会保障審議会人口部会の第7回会合は2006年8月7日(月)に厚生労働省で、第8回会合は2006年9月29日(金)に日比谷松本楼で開催された。

第7回人口部会では、報告聴取として「日本の平均余命(平成17年簡易生命票)」について厚生労働省大臣官房統計情報部より報告があり、続いて「将来推計人口の方法と検証について—平成14年推計の仕組みと評価—」について国立社会保障・人口問題研究所より報告があった。社人研報告では、過去5年における前回推計の仮定値及び結果と実績値との比較検証が行われ、参照コーホートと最終コーホートの出生率の設定方法、高年齢における出生水準、不妊の反映、離婚の影響、死亡仮定値の設定方法などについて、質疑応答があった。

第8回人口部会では、報告聴取として、①「第13回出生動向基本調査(独身者調査)」(国立社会保障・人口問題研究所)、②「少子化の見通しに関する有識者調査(デルファイ調査)」(明治大学政治

経済学部 安藏伸治教授), ③「晩婚化に伴う不妊治療の問題点について」(宮城悦子委員)の報告があった。国立社会保障・人口問題研究所からは「日本の将来推計人口 一次期推計の基本的考え方」について報告があり, 次期推計の出生, 死亡, 移動の仮定値設定に関する基本的な考え方について説明がなされた。質疑応答では, 2006年に入ってから結婚, 出生数上昇の取り扱い, 出生仮定値の設定方法における精緻化の方法等について審議がなされた。(金子隆一記)

第9回社会保障審議会人口部会

社会保障審議会人口部会の第9回会合が2006年11月14日(火), 厚生労働省で開催された。報告聴取として, 「平成17年国勢調査(第1次基本集計結果)」(総務省統計局)に関する報告がなされた。

主議題である「次期将来人口推計の方法と仮定設定」では, 国立社会保障・人口問題研究所より次期将来人口推計の前提, 仮定, および仮定値設定方法の主な変更点に関して報告がなされた。各項目に関する質疑応答の後, 次期推計が同研究所の推計方法によって行われ, 回目の会議上で結果が公表されることが確認された。なお, 終盤において経済財政諮問会議(2006年11月10日)の柳沢厚生労働大臣による発案に基づいて, 客観的かつ中立な立場で行われる将来人口推計とは別に, 「新人口推計公表後, 国民の結婚・出産に関する希望が一定程度かなった場合の人口構造の将来像を別途試算」し, これをもとに社会保障制度等を審議するための場を設ける考えがあることが政策統括官より報告された。(金子隆一記)

2006年度統計関連学会連合大会

2006年9月5日～8日, 東北大学川内キャンパス(仙台市)において2006年度統計関連学会連合大会が開催された。本連合大会は2002年度より, 日本統計学会, 応用統計学会, 日本計量生物学会の連合大会として開催されている。今次大会には約850名が参加し, これは過去5年間の連合大会で最大規模であった。

本大会では一般向けとして市民講演会が行われてきているが, 本年度は「人口減少と少子高齢化の社会と経済・統計データで読む21世紀の日本」というテーマが設定され, 金子隆一人口動向研究部長による「人口統計データの示す日本の過去, 現在, そして未来」及び京都大学大学院経済学研究科・橘木俊詔教授による「少子・高齢化の下での社会保障制度改革」の二つの講演が行われた。また, 企画セッションでは「人口センサスの方法転換問題」というセッションが設けられ, 小島宏国際関係部長による「人口センサスにおける国際移動者・外国人人口等の把握」をはじめとする, 我が国や諸外国の人口センサスに関する様々な報告が行われた。近年の大会では人口統計に関するセッションがそれほど多いとはいえない状況であったと思われるが, 国勢調査の実施や人口減少など人口統計に関する関心の高まりもあり, 市民講演会や企画セッションなどで人口関係のトピックが多く取り上げられたことは特筆すべきであろう。

その他, 当研究所や人口に関連する報告としては,

「国民生活基礎調査における二相抽出法を用いた分布推定」

……………石井 太(国立社会保障・人口問題研究所)
村山令二(厚生労働省)